



# 一人一句

令和六年一月

第三七二回・一人一句

兼題・初空・伊勢海老

まるまるの吾子バンザイの初御空 敏子

初空に夢の続きを尋ねけり 潤一郎

三代で突く伊勢海老冥加なり 里美

白き月のこりて青き初御空 裕子

初空や彼方に地震の芽ありしか 寿子

初御空表も裏もなき御富士 昭子

伊勢海老の髭おし開ける重の蓋 訓

伊勢海老に吸い寄せられしやんちやかな 恵子

初空や決して変わらぬ心の美 義明

初空にどんな年かと問いかけて 具子

八間の湯宿を訪うて初御空 六斗